

障害者虐待 ID 1004942

身体的・心理的・性的・経済的な虐待や放棄・放任などの障害者虐待は、障害のある方の尊厳を脅かすものです。虐待を受けたときや、虐待を受けたと思われる障害のある方に気付いたときは、速やかに通報してください。

通報先 市役所福祉課 ☎0587(32)1278 FAX 0587(32)1219

STOP!!
虐待・暴力

女性に対する暴力 問合せ先 市役所地域協働課 ☎0587(32)1146 ID 1006617

DV、性犯罪、ストーカー行為、売買春、人身取引、セクシュアルハラスメントなど、女性に対する暴力は人権を著しく侵害するものであり、決して許されるものではありません。被害に遭った方は1人で悩まず、相談することが大切です。



▲女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク

相談窓口 ※各相談窓口は、祝日・年末年始は休み

- 稲沢市役所 女性悩みごと相談** ☎0587(32)1278 第2・第4水曜日、午前10時～午後3時30分
- 県女性相談センター 女性悩みごと電話相談** ☎052(962)2527 午前9時～午後9時(平日)、午前9時～午後4時(土・日曜日) 弁護士によるDV専門電話相談 ☎052(962)2528 月曜日、午後2時～3時30分
- 県警察相談窓口** ☎052(953)9110 午前9時～午後5時(平日)
- 名古屋法務局 女性の人権ホットライン** ☎0570(070)810 午前8時30分～午後5時15分(平日) ※11月12日(金)～18日(木)の強化週間中は、午前8時30分～午後7時(平日)、午前10時～午後5時(土・日曜日)

児童虐待 ID 1008737

「虐待かな？」と思ったら迷わず通告を

確信はなくても、虐待の疑いがあった場合、皆さんには通告する義務があります。通告とは、「念のため調査してください」と連絡することです。匿名の通告でも受け付けられます。通告した方が責任を問われることはありません。

子どもの「命」と「未来」を守り、子育てに悩む保護者を救うため、早めの情報提供をお願いします。

通告先

児童相談所 全国共通ダイヤル いちはやく ☎189
一宮児童相談センター ☎0586(45)1558
市役所子育て支援課 ☎0587(86)1327

子育てに悩んでいる方、ストレスを感じている方はお早めに相談を

育児不安やストレスが積み重なると、はけ口が子どもに向けられてしまうことがあります。不安のある方は、早めに相談してください。

子育て相談室なのはな(中央子育て支援センター内) ☎0587(34)4159
健康推進課(保健センター内) ☎0587(21)2300



▲児童虐待防止のシンボルマーク「オレンジリボン」

11月9日～15日

秋季全国火災予防運動

問合せ先 消防本部予防課 ☎0587(22)2114 ID 1008543

皆さんの尊い生命や財産が火災によって失われることのないよう、日頃から火の取り扱いに十分注意しましょう。また、放火や放火の疑いによる火災が、火災原因の上位を占めています。地域全体で、放火されない環境づくりが大切です。

住宅防火 いのちを守る10のポイント

4つの習慣

- 寝たばこは、絶対にしない・させない
- ストープの周りに燃えやすいものを置かない
- こんろを使うときは、火のそばを離れない
- コンセントはほこりを清掃し、不必要なプラグは抜く

6つの対策

- ストープやこんろなどは安全装置の付いた機器を使用する
- 住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する
- 部屋を整理整頓し、寝具・衣類・カーテンは防災品を使用する
- 住宅用消火器などを設置し、使い方を確認しておく
- お年寄りや体の不自由な方は、避難経路と避難方法を常に確保しておく
- 防火防災訓練への参加、戸別訪問など、地域ぐるみで防火対策を行う



11月9日は「119番の日」

問合せ先 消防署情報指令課(一宮市・稲沢市消防指令センター内) ☎0587(22)2116 ID 1005392

火災や救急、救助事故で119番通報するときは、落ち着いて正確に次の内容を伝えてください。問い合わせやいたずら電話は絶対にしないでください。

- ①火災・救急・救助の別をはっきりと 「火事です」「救急です」「救助です」
- ②住所、付近の目標を詳しく 「〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇〇号の△△です」「目標は、〇〇医院の南側です」
- ③何が(誰が)どうしたかを正確に 「〇〇の2階が燃えています」「交通事故で女の子が足をけがしています」
- ④通報者を明らかに 「私の名前は〇〇△△です」「電話番号は△△-××××です」

ヒートショックに気を付けましょう

問合せ先 消防署警防第1・第2課 ☎0587(22)0119 ID 1007460

ヒートショックとは、急激な温度の変化により血圧が大きく変動し、脳卒中や心筋梗塞を引き起こすなど体に悪影響を及ぼすことです。浴槽での事故が多く、11月～4月の冬季を中心に発生しています。事故を防ぐために、入浴習慣を見直しましょう。

ヒートショックを予防するための安全策

- ・入浴前に脱衣所や浴室を暖める
- ・湯温は41度以下、入浴時間は10分以内にする
- ・浴槽から急に立ち上がらないようにする
- ・食後すぐ、飲酒後、薬を服用後の入浴は避ける
- ・入浴前に家族など周りの人に声を掛ける

